

サウジアラビアにおける移民エスノクラシー：サーベイ調査の結果から  
Migrant Ethnocracy in Saudi Arabia: Survey Results

松尾昌樹（宇都宮大学）  
Masaki MATSUO (Utsunomiya University)

キーワード：サウジアラビア、湾岸アラブ諸国、移民エスノクラシー、サーベイ実験

中東の湾岸アラブ諸国（クウェート、カタール、バハレーン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、オマーン）は石油輸出益に基づく経済成長を背景に、多くの移民労働者を惹きつけており、これらの国の人口に占める移民割合はおよそ 50%から 90%に達する。湾岸アラブ諸国では移民と国民の間に大きな賃金格差があり、また国民が管理職に従事し、移民がサービス業や工場労働、建設労働に従事する国籍別分業体制が採用されている（松尾 2013）。国民と移民の間の可視化された格差は湾岸アラブ諸国の権威主義体制を支える「移民エスノクラシー」として機能している。エスノクラシー(Ethnocracy)は肌の色や母語、民族的帰属など、後天的に変更不可能な特徴に基づいて支配／非支配の境界が定められる制度である。移民エスノクラシーは国籍に基づくエスノクラシー(Longva 2005)であり、国民と移民の間で支配／被支配の関係が形成される。国籍は帰化によって変更可能であるが、湾岸アラブ諸国では帰化は事実上不可能である。湾岸アラブ諸国の国民は自分たちが忌避する職業を移民に転嫁し、また移民に従属させることで不満を解消し、このような格差を生成・維持可能とする権威主義体制の維持を積極的に支持する。

湾岸アラブ諸国で移民エスノクラシーが維持される原因について、先行研究では、この地域の奴隷制の伝統や外国人嫌いの感情に基づく説明や（Jureidini 2003; Ullah et al. 2020）、権威主義体制の持続と経済合理性から移民と国民の格差維持が最適解となる「追加統治論」（Mehlum, Moene, Østenstad 2016）が展開されてきた。さらには、移民労働者への聞き取り調査に基づくエスノグラフィーもある（細田 2014）。これらの先行研究はいずれも重要な視点を提供しているものの、受け入れ国の国民が有する移民への感情や、自国の移民受け入れ政策への評価を明らかにしてこなかった。

これに対して本稿では、2023年にサウジアラビア国民（以下、サウジ人）およびサウジアラビアに居住する移民を対象とするオンラインサーベイ調査を行い、サウジ人が移民に対して抱く感情を収集するとともに、コンジョイント実験を用いて自国の移民政策に対する評価を収集した（n=739、全 70 問の非対面オンラインサーベイ、回答の収集にあたっては国勢調査を元に性別と 6 段階の年齢別クォータを設定して母集団の特徴を反映させた）。同様に、サウジアラビアに居住する移民に対して、サウジアラビアでの生活やサウジアラビアの移民政策に対する評価を収集した（n=922、全 74 問の非対面オンラインサーベイ、回答の収集にあたっては国勢調査を元に性別と居住者人口の多い 9 国籍に「その他」を加えた

国籍カテゴリーのクォータを設定して母集団の特徴を反映させた)。移民政策に対する評価に対する因子分析と、因子スコアを説明変数、移民と国民との間の社会的接触頻度を従属変数とする回帰分析から、以下のことが明らかとなった。第一に、大半のサウジ人は自国の社会を高く評価し、自身が外国人に対して親近感を強く持っていることと自認するが、実際には移民との交流はない。これとは対照的に、移民と親密関係を築けていないと自認するサウジ人ほど、移民問題に強い関心を示す。このことは、大半のサウジ人は移民との直接的な交流がないために移民エスノクラシーを知らず、関心を持たないことを示唆する。第二に、平均的なサウジ人は自国の移民政策として移民の総数や国籍について制限を加えることに賛同するが、移民の就労分野を規制する政策には賛同しない。このことは、平均的なサウジ人はエスノクラシー体制を積極的に維持する意図が希薄であることを示している。これとは対照的に、サウジアラビアに居住する平均的な移民は移民の就労分野に対する規制に強く賛同する。ここから、サウジアラビアにおけるエスノクラシー体制は移民自身によって維持されていることが示唆される。移民がエスノクラシー体制を維持する理由としては、移民と国民の就労分野を分けることが労働市場でのサウジ人と移民の競合を避け、ひいては制度的に優遇されているサウジ人から移民の就労分野を守ることにつながると移民が認識しているためと考えられる。

このように、サウジアラビアにおいて移民エスノクラシーが維持されているのは、サウジ人自身が移民の現状に対して関心が低いこと、それゆえ移民と国民の格差が社会問題化しにくいこと、移民自身が国籍別分業体制を維持するインセンティブを持つことが指摘される。

(参考文献一覧)

- 細田尚美(編著) 2014『湾岸アラブ諸国の移民労働者 「多外国人国家」の出現と生活実態』明石書店
- 松尾昌樹(2013)「湾岸アラブ諸国における国民と移民—国籍に基づく分業体制と権威主義体制」土屋一樹編著『中東地域秩序の行方—「アラブの春」と中東諸国の対外政策—』アジア経済研究所
- Ullah, A.K.M.A., Lee, C. W., Hassan, S., Hasharina, N., and Nawaz, F. (2020) “Xenophobia in the GCC countries: migrants' desire and distress”, *Global Affairs*.
- Jureidini, Ray (2003) “Migrant Workers and Xenophobia in the Middle East”, Identities, Conflict and Cohesion Programme Paper Number 2, United Nations Research Institute for Social Development.
- Longva, Anh Nga (2005) “Neither autocracy nor democracy but ethnocracy: citizenship, expatriates and the socio-political system in Kuwait”, in Dresch, P. and J. Piscatori eds., *Monarchies and nations: globalization and identity in the Arab States of the Gulf*, I. B. Tauris.
- Mehlum, H., K. Moene, and G. Østenstad (2016) “Guest workers as a barrier to democratization in oil-rich countries”, in Selvik, K., B. O. Utvik eds., *Oil States in the New Middle East: Uprisings and stability*, Routledge.

※本報告は、科研費・基盤研究(A) 20H00042「アジア移民ハイウェイ：短期滞在型受入制度下における移民の選択」(研究代表者：松尾昌樹)の研究成果の一部である。